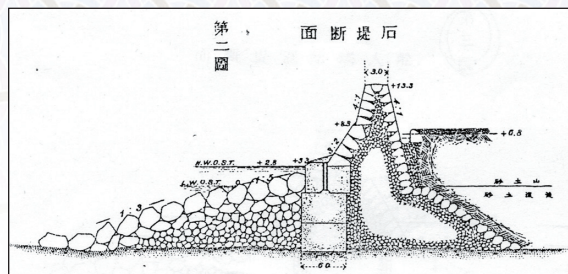


「函館漁港船入澗防波堤」

北海道函館市

明治29年～33年の函館港改良工事では、大型船の入港を可能とする浚渫、港内への漂砂の防止、船着場、造船所の整備や市街地の造成等を目的に、浚渫、防砂堤・防波堤の整備、弁天台場(安政から文久年間にかけて築造された旧砲台)地先海面の埋立等が実施された。船入澗防波堤は、この改良工事の一環として明治32年に完成したものであり、近代港湾整備の先駆者である廣井勇博士の調査・設計により進められた。北海道最初の近代港湾施設であるとともに、学術的にも貴重な土木施設として平成16年に土木学会選奨土木施設に認定されている。

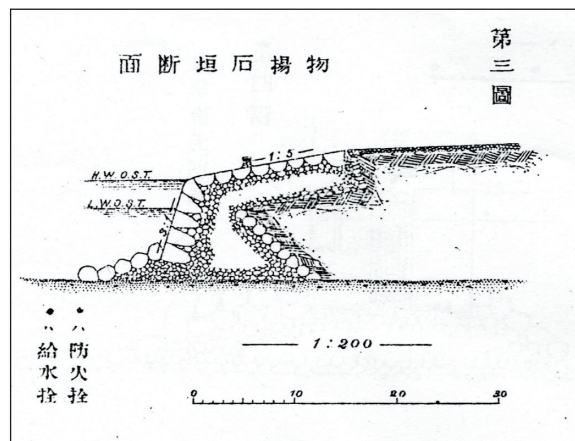


石堤断面図

澗口を挟んで北側104m、南側10m(竣工時は約54m)がほぼ当時のまま現存しており(平成18年現在、十勝地震等により一部の破損、崩落がある)、他に当時の改良工事記念碑がある。防波堤の構造は、石積とコンクリートを使用した練り積み構造で、土台に使用した日本人の製作によるコンクリートブロックとともに、当時、他に類のない画期的なものであった。また、石積みには、弁天台場の取り壊しにより発生した関知石を使用し、石畳を思わせる美しい仕上がりを見せている。

調査・設計を担当した廣井博士は、高知県に生まれ、明治14年に札幌農学校を2期生として卒業

した。農学校では、クラーク博士の後を受けて教頭となった土木技士ホイラーに学び、その後アメリカ、ドイツに留学して土木工学を学んだ。明治22年に札幌農学校教授に任ぜられ、翌年合わせて北海道技士を兼任し、北海道港湾の調査・設計等に従事した。函館港改良工事の他、小樽、室蘭、釧路等の重要港湾を担当し、北海道の近代的築港の礎を築いた。特に、小樽港北防波堤は、我が国初の本格的な外洋防波堤であり、この成功が続く北海道各地の築港事業を大きくさせる契機となったと言われる。



物揚石垣断面図

【参考資料】北海道開発局函館開発建設部
「平成15年函館漁港歴史的防波堤検討会」第1回資料

みどころ



- 函館山からの夜景：函館漁港の付近にある函館山(標高334m)からの夜景が有名。山頂へはロープウェイ、タクシー、バス、自家用車の他、登山道があり徒歩で登ることができる。頂上からは函館漁港を含め市内を一望でき、展望は昼も夜も美しいが、特に夜景は「世界3大夜景」の一つと言われている。